

平成28年山梨県観光入込客統計調査結果

調査方法 ~観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に基づく調査(平成22年4月より導入)

観光入込客数調査・・・396地点(施設等304地点、行祭事・イベント92)
 ・自然(山岳、湖等)、文化歴史(神社、美術館、ワイナリー等)、温泉、スポーツレクリエーション(公園、遊園地等)、都市型観光(農産物直売所等)、その他(道の駅等)、行祭事・イベントなど、県内の観光地や観光施設に対して、来客の利用状況を調査

アンケート調査・・・3,356サンプル

- ・対面聞き取り方式
- ・四季毎に、年4回×県内10箇所で開催
- ・主な質問項目：性別、年齢、居住地、旅行目的、消費動向、利用交通機関、満足度 等

宿泊客数調査・・・1,303施設

・観光庁が実施する宿泊旅行統計調査の結果を使用。

結果概要

山梨県観光入込客(実人数)は3,204万6千人であり、前年比 +1.9%

- ・日帰り客(実人数)は2,302万人であり、前年比 +0.8%
 - ・宿泊客(実人数)は902万6千人であり、前年比 +4.6%
 - ・県外客(実人数)は2,478万6千人であり、前年比 +3.3%
 - ・県内客(実人数)は726万1千人であり、前年比 2.8%
- 県外客には外国人を含む

外国人延べ宿泊者数(速報値)は137万3千人であり、前年比 +9.6%

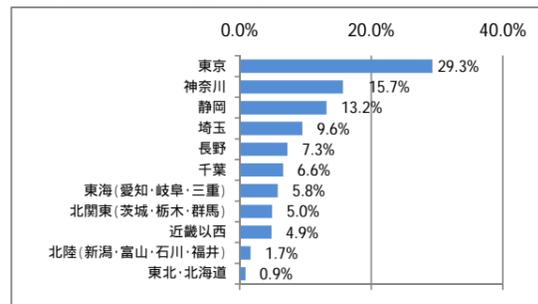
外国人延べ宿泊者数に関しては観光庁宿泊旅行統計調査の数字を比較

観光消費額は、県全体で4,157億円であり、前年比 +4.8%

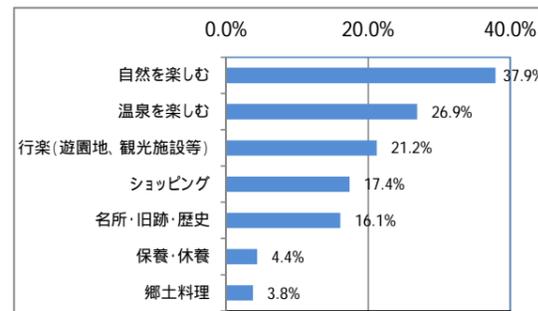
1人当たりの平均観光消費額は、12,971円であり、前年比 +2.9%

~県外観光客のアンケート調査

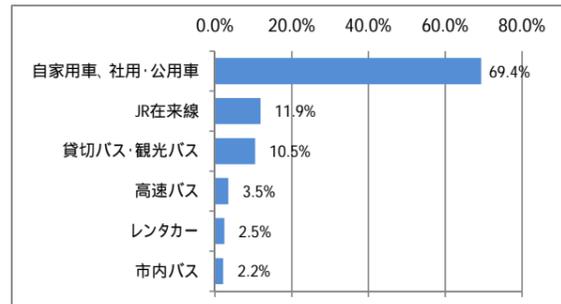
居住地
 本県から近い距離の都県が大半を占めており、隣接都県からの来訪者は75.1%を占める。



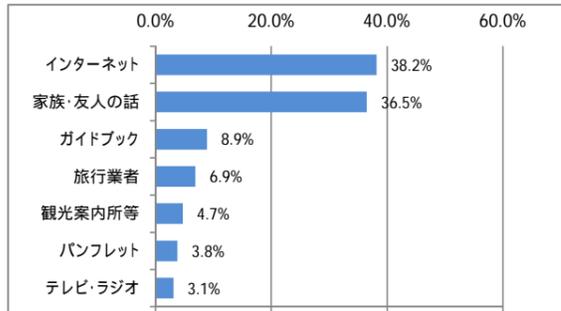
旅行目的(複数回答)
 前年に引き続き、自然や温泉を楽しむ目的での来県者が多い。



交通手段(複数回答)
 車を利用した来県者が圧倒的に多く、次いでJR在来線の利用が多い。



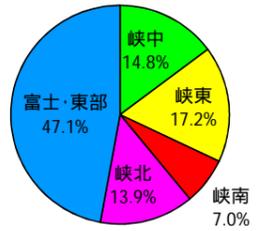
旅行計画の参考資料(複数回答)
 インターネットでの情報や普段身近に接する人からの情報を旅行の参考とする来県者が多い。



圏域別の比較(実人数)

富士・東部圏域の割合が47.1%と半数に近い。富士・東部では、東日本大震災のあった平成23年から増加を続けている。

【圏域別構成比】



- ・ 関東中は475万2千人であり、前年比 +2.2%
- ・ 関東東は551万2千人であり、前年比 2.2%
- ・ 関東南は225万6千人であり、前年比 +0.7%
- ・ 関東北は444万6千人であり、前年比 +9.5%
- ・ 富士・東部は1,508万1千人であり、前年比 +1.4%

月別の比較(実人数、3カ年比較)

概況

- ・平成27年と比較して1.9%の増加、平成26年と比較して6.8%の増加となった。
- ・一年のうちで8月が421万人(構成比13.1%)と最も多く、12月が159万人(構成比5.0%)と最も少ない。
- ・伸び率が最も高かったのは7月であり、前年比14.5%の増加。一方、伸び率が最も低かったのは9月の前年比9.3%の減少である。

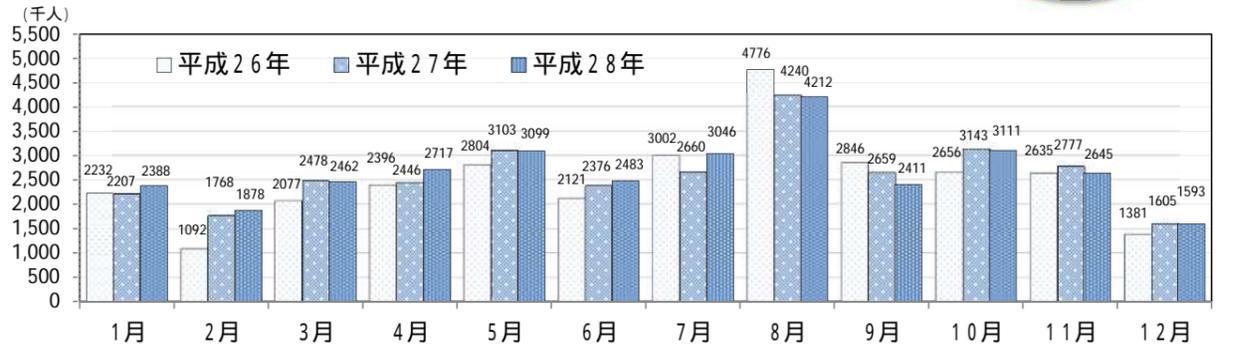
【三カ年比較表】 (単位:人、%)

項目	平成26年	平成27年	平成28年	対前年比	対前々年比
1月	2,231,725	2,207,364	2,387,755	108.2%	107.0%
2月	1,091,550	1,768,209	1,877,838	106.2%	172.0%
3月	2,076,894	2,477,696	2,462,220	99.4%	118.6%
4月	2,395,805	2,446,162	2,717,335	111.1%	113.4%
5月	2,803,601	3,103,067	3,098,962	99.9%	110.5%
6月	2,120,823	2,375,648	2,483,039	104.5%	117.1%
7月	3,002,094	2,659,799	3,045,898	114.5%	101.5%
8月	4,776,161	4,239,667	4,212,093	99.3%	88.2%
9月	2,846,438	2,658,736	2,411,115	90.7%	84.7%
10月	2,655,787	3,142,961	3,111,447	99.0%	117.2%
11月	2,634,851	2,777,415	2,644,720	95.2%	100.4%
12月	1,381,114	1,605,251	1,593,370	99.3%	115.4%
年計	30,016,843	31,461,975	32,045,792	101.9%	106.8%

【平成28年月別構成比】



【三カ年比較グラフ】



月別の傾向

- ・1~3月は、雪不足(暖冬)によるスキー客の減少や、バスツアーの減少などがみられたものの、好天に恵まれる日が多く、観光入込客数は増加した。また、旧正月(春節)休暇を利用して、多くの中国人観光客が訪れた。
- ・4~6月は、ゴールデンウィークの日並びが悪かったことや、前年は甲斐善光寺の御開帳があった反動がみられたものの、信玄公祭りでは過去最高の観客動員数を記録したことや、桜シーズンの訪日需要の高まりなどによる外国人観光客の増加などがあり、観光入込客数は増加した。
- ・7~8月は、富士登山の御利益が高まるとされる12年に1度の「小縁年」であったことや、8月11日が祝日「山の日」になったことなどから、観光入込客数は増加した。
- ・9月は、前年は5連休となったシルバーウィークの日並びが悪く、長雨や台風など天候不順の日が続いたため、多くの観光施設で観光客が減少し、一番の減少率となった。
- ・10~12月は、11月に甲府で54年ぶりに降雪が確認されるなど、天候に恵まれなかったことや、前年の大村智北里大学栄誉教授のノーベル医学生理学賞の受賞、「おもてなしやまなし!ふるさと旅行券」の発行、富士スバルライン車種限定平日通行無料化などがあったことも、マイナス要因として考えられる。